JAKBY/73

2015年 7月

JA札内 ファーマーズマーケット

J A札内ファーマーズマーケット実行委員会の直売所が今年も5月から農協旧あかしや 支店で始まりました。

初日の5月2日は開店と同時に店内を埋め尽くす程のお客様がご来店されました。店頭にはホウレンソウや大根、ゴボウ、ハクサイといった旬を代表する野菜の他、花卉の苗など多数出品されます。今年の品揃えは例年と同程度ということで、連日多くのお客様に足を運んで頂いております。

毎週土・日曜日の午前9時から正午までの開店で、連日地域の消費者で賑わいをみせています。今年は11月29日までのオープンです。7月からは夏野菜が勢揃いしますので、是非ご利用ください。







TPP交渉の国会決議堅持を求めて

5月16日、札幌市中央区でTPP交渉の国会決議堅持を求める集会が開かれました。北海道農業協同組合中央会、北海道漁業協同組合連合会、北海道森林組合連合会、北海道農民

連盟が主催し、関係機関や団体がおよそ650名 参加しました。

飛田稔章北農中央会会長が挨拶をした後、「農林 水産物の重要品目について、除外もしくは再協議 の対象にするとした衆参両院の農林水産委員会に おける国会決議を堅持すること。」「TPP交渉に 関する情報を国会及び国民に開示するとともに、 十分な国民的議論を行うこと。」を強く要請しまし た。集会終了後は参加者が札幌市都心部をデモ行 進してTPP交渉の意識を市民にも喚起しました。



第67回 通常総会

本組合の第67回通常総会が5月22日午前9時から札内福祉センターで開催されました。出席された組合員は144名(委任・書面議決を含む。出席率72.3%)でした。

平成26年度事業報告、27年度事業計画の設定など11議案 を審議し、全議案が原案通り可決決定されました。

髙橋組合長による開会の挨拶では、「昨年の営農を振り返ると、 春先の巻き付けは好天に恵まれ順調に進みましたが、風害や霜害 の被害があり、甜菜では再播となる圃場もありました。小麦では 凍害や干ばつの影響を受け、茎数不足により収量が減少しました が、夏場の好天によって各作物とも良好な作況となりました。畜



産では濃厚飼料の高騰をはじめとする生産資材の高止まりの中で、コスト高の経営になりましたが、乳価の値上げや和牛素牛の高値もあり、一部の作目で市販の低迷はあったものの、組合員の皆様の努力が総じて報われた年であったと推察致します。この様な作況の中で、当組合の農畜産物の取扱高は交付金を除いて、36億6,500万円、経常利益で6,317万円となり、計画以上の成果を上げる事が出来ました。この事は組合員皆様の日々のたゆまぬ営農努力と組合への結集の賜物と深く感謝申し上げます。」と挨拶しました。

新年度の固定資産の取得については車両洗浄機(馬鈴薯・野菜)、コンテナ洗浄機、回転フォークリフト更新、馬鈴薯選果場下水道整備など、原案通り承認されました。

この他、「TPP等国際貿易交渉から北海道を守り抜く決議」について、TPPが農業だけの問題ではなく国民一人ひとりの暮らしや地域社会の将来に極めて大きな禍根を残す問題であり、国民的議論のないまま交渉を進めることは決して国益にかなうものでは無く、引き続き広く道民・国民に訴えるとともに、TPP交渉に係る衆参両院の農林水産委員会決議の遵守に向け、政府や国会議員などへの要求活動をさらに強化していく事が挙げられました。また、「農協改革に関する決議」について、食料の安定供給、地域の振興について農協法の目的に明確に位置付けし、事業目的の見直しにあたっては、協同組合の基本的性格を維持する事。准組合員は農業や地域経済の発展をともに支えるパートナーであり、人口減少への対応や雇用の創出など「地方創生」のためにも准組合員の利用制限は行わない事、JA・連合会の協同組合としての事業・組織を制約する一方的な事業方式、業務執行体制、法人形態の転換等は強制しない事等、満場一致で決議されました。

幕別町畜産祭り

平成27年度の幕別町畜産祭りが6月4日、幕別町南勢牧場多目的広場に於いて開催されました。5月下旬から厳しい暑さが続く6月初旬でしたが、当日は暑さも和らぎ涼しい天候に恵まれ、絶好の共進会日和となりました。

町内各地の畜産農家の皆さんが丹精込めて育てた牛約50頭が出陳され、体格や毛並を競いました。

また、昼食にはバーベキューやお楽しみ抽選会などが行われ、参加者同士の交流を深めました。午後の部の最初には一般の方も参加できる『ジャッジングコンテスト』も行われ、1日を通して活気の溢れる畜産祭りとなりました。



農村ホームステイ

昨年に引き続き、「農村ホームステイ」事業が十勝管内の農家で行われ、兵庫県から県立 高校2年生の生徒239名が農業の生産現場を体験しようと来勝し、幕別町へは1クラス 39名の生徒がやってきました。

幕別町では、「まくべつ稔りの里」が主催で修学旅行生に農村での生活を体験し農業と日常生活のつながりを学んでもらう事を目的に、平成24年度から行われています。

6月10日に糠内コミュニティセンターで行われた入村式の後、札内地区の受入れ農家である3人のもとへ計9名の生徒が移動しました。各農家で搾乳や長ネギの収穫の見学、かぼちゃの移植作業の手伝い等を行い、「充実した2日間を過ごす事ができた。」「良い経験になった。」と生徒達は話していました。

都会の日常では経験できない十勝の気候と自然の中、組合員の方々との楽しいひと時を 送った生徒達は別れを惜しんで涙を流す場面もありました。

長ネギ収穫ピーク!

春耕期の蒔穫作業も終え、植え付け作業から約3ヶ月で収穫できるハウス栽培で育てられた長ネギの収穫作業がピークを迎えております。

収穫した長ネギは手際よく皮むきし、形を揃え250gに東ねて出荷されます。選果作業は6月下旬まで続き、主に、帯広・札幌市場に出荷されます。「札内地区の長ネギは柔らかく、ネギ特有の香り成分が含まれる白い根部分が長いため風味が豊か」と需要も多く市場では比較的高値で取引されています。

今年も天候に恵まれ、この十勝野で「豊穣の秋に」というのが生産者の願いです。





